

世界の 情報

顧問 中村重信

World News & Information

★認知症の薬物療法の効果と副作用（アメリカ）

日本ではアルツハイマー病の治療薬として3種のコリンエステラーゼ阻害薬とメマンチンが使われています。これらの薬の効果と副作用について行われた257の研究結果が検討されました¹⁾。コリンエステラーゼ阻害薬については〈①軽度～中等度のアルツハイマー病やレビー小体型認知症の人の認知、機能、日常活動をわずかに改善するが血管性認知症には効果はみられない。②コリンエステラーゼ阻害薬は日を追って効果が減弱し、1年後にはごくわずかの効果しかみられず、進行した認知症の人や85歳以上の人には効果がみられない。③コリンエステラーゼ阻害薬の副作用

は薬の量が多いほど増え、消化器系、神経系、心血管系への影響が大きい。④重大な副作用として体重減少、衰弱、失神を起こす。⑤85歳以上の人の有害事象は若年者の2倍である。〉と報告されています。また、メマンチンについては〈①単独療法は中等度～重度のアルツハイマー病や血管性認知症の人の認知機能にある程度の効果があるが、数ヶ月で効果が減弱する。②軽度認知症やレビー小体型認知症には効果がない。③コリンエステラーゼ阻害薬との併用効果もみられない。④副作用は比較的軽い。〉との結果が報告されています。

1) Buckley JSら Drugs Aging, 2015